

## ● ○ ● 新年のご挨拶 ● ○ ●

会員の皆様、あけましておめでとうございます。

J I F A Sは、設立12回目の正月を迎えております。

これは、会員の皆様はじめ関係各位のご支援、ご協力の賜物と、心より御礼申し上げる次第です。

わが国は戦後60年、奇跡的な復興と経済発展を遂げましたが、いま大きな転換期にさしかかっています。高度成長期から、一転して低成長時代を迎えた中で、経済のグローバル化や少子高齢の進展など、戦後経験したことのない新しい事態に直面しています。

設立来、J I F A Sが技術の本質を探るべく継続して得た成果は、今後の水産養殖業界に大いに貢献できることを確信しております。

これらの成果のおかげで、J I F A Sは日本の水産養殖の改善のみに留まらず、世界の水産業の健全な発展に貢献し、強いては世界の食糧問題の解決に寄与するチャンスを与えられたように思います。

徐々にではありますが、社会的にも認知されてきています。

本年は、昨年中期から海洋政策研究財団（ORPF）の協力のもとに筑波研究所における小規模養殖システムを広く世間に普及活動を続けていく所存です。

本システムは世界に類をみない画期的な最先端技術であり、魚介類の養殖技術を大きく



会長 小暮 次雄

変換していくものと自負しております。

即ち、従来の閉鎖循環式陸上養殖システムの欠点とされていたコストダウンが可能になり、プロを必要としな

いシンプル、かつ効率のよいシステムです。

加えて、H A C C P対応、ISO 22000を取得する方向で進んでいます。

水産業を含む1次産業は、歴史的に国土文化と一体をなして発展してきた側面を否めることは出ません。生産地域における社会的事情は、技術的要求と合わせて考慮する必要があります。特に、これから一層高齢化の進む日本の社会事情を考慮すると、これら高齢者を吸収できるような水産のあり方を検討することも極めて重要なときです。

日本の沿岸漁業の生産力を基本的に高めていく努力は、国家の組織的開発機構が負わなければなりません。J I F A Sはこのような社会的事情に配慮した柔軟な対応により、健全な社会建設のため貢献できることを目指し、虚心坦懐に事を図り、関係各位の期待に応えられますよう精進したいと思います。

最後になりましたが、会員各位、関係者の皆様の健康と本年の活躍を心からお祈り申し上げます。